平成２４年度第２回宗像市幼児教育審議会

議　事　録

期　日：平成２５年　３月２６日（火）
時　間：１９：００～２０：３０
会　場：宗像市役所２０２会議室

審議会委員					
田中　敏明	○	村田　昭孝	×	納富　恵子	×
吉田　靖生	○	元岡　充代	○	内田　龍男	×
髙杉　洋史	○	奥村　美香	○	假屋　和代	○
上野　大地	○				

事務局			
	中野　万由美	髙橋　知子	安川　尚美

配布資料
・　宗像市幼児教育振興プログラム平成２５年度事業について
・　宗像市幼児教育振興プログラムダイジェスト版（リーフレット）
・　幼児期の子育て～就学に向けて～（リーフレット）

１．挨拶
　田中会長挨拶

２．議事
（１）　平成２５年度事業について
《全体に対して》
「何のためにこの事業をするのか」意義・目的を示すことは大事。意義・目的をふり返りながらこの事業をしていく必要がある。
この幼児教育振興プログラムは、要するに園と家庭の教育の質を上げることを目的としているので、育てたい幼児像の 3 つの目標をもっと意識したテーマで事業が行う必要がある。
《目標２に対して》
（１）保育所・幼稚園と小学校との連携・接続の強化
　意義・目的を示し、「成果」を出すことが大切。平成２５年度から「保育参観」を新たに実施するようだが、そのことが、ここの目標となっている「学びの連続性」を保障

することになっていくのか疑問を感じる。
→宗像市だけでなく今、保幼小の連携をしなければならない状況があって、園と小学校は個別にお互いに足繁く通い合っている状況。特に入学前の２、３月が多い。
→それだと、一生懸命連携しようと情報をつないだ先生が、実際には異動してしまったとか、担任が高学年になったりとせっかくつないだ情報が分断してしまう可能性もあるのではないか。そういったつなぐ時期ひとつにしても工夫して連携が無駄にならないように考えてやっていく必要があると思う。
→そういった意味でもこの「保育参観」を５、６月に取り入れてもらっていることはありがたい。実際には保育士が外に出ることは難しい状況があるが、可能な限り活用したいと思っている。

県教育委員会の指定を受けて、宮若市・大川市がこの連携について深い取り組みをしている。その実践の資料を取り寄せたり、連絡会等の講師に実践校の教頭先生に来ていただくなどしてみてはどうか。

《目標３に対して》

（２）市主催研修の充実

幼児教育振興プログラムの 3 つの共通目標を意識した研修が行われるよう提案して欲しい。先生たちの研修にしても、もっとダイレクトに目標につなぐ研修があっても良いのではないか。

《目標 5 に対して》

発達支援に限らず、「子どもの育ち」をメインにした数値での検証がやはり欲しい。例えば「生活習慣の身につき方」などを県・全国レベルと比較するなどして効果を検証する方法を検討してはどうか。

（１）特別な支援が必要な子どもの早期発見・早期支援の充実

発達支援については、支援の目標がどこにあるのだろうと常々感じている。「早期発見」はいいが、そこで目標が終わってしまっているように感じる。「早期発見・早期支援」をすることによって最終的に「どうする」ことが目的なのか。入学後の現状では、普通学級と特別支援学級を行ったり来たりしているが、学校としては普通学級で活動できるようにすることが目標なのか、単に個別にお手伝いしているだけなのか、各学校ごとに違う目標を持っていたら対応もばらばらで人によって違ってくる。
また、早期発見しても最終判断は「保護者」にある。客観的には専門家でなくても明らかに支援が必要だろうと思われるお子さんでも、保護者が認めなければ普通学級で活動することになるし、せっかくの早期発見が意味をなさない。せっかく「早期発見」しているのであれば、保護者を何とか説得できるようになればと思う。また、現実を

受け入れたとしてもどうしていいかわからなくて困っている保護者に対する相談の場・悩みを聞く場所がもっと身近にあってほしい。

（2）保護者向けリーフレットについて

ここ数年同じ内容で毎年配布しているリーフレット 2 種について、配布時期・活用の仕方・内容等についてご意見を伺いたい。

『幼児教育振興プログラムダイジェスト版』

わかりづらい。知ってて当然のことと思えることでも、意外と知らない人は多く、このリーフレットも「知っている人」の中でできているものだという印象を受ける。

「知らない」保護者達をいかに巻き込んで理解してもらうかというところが大切。

『幼児期の子育て～就学に向けて～』

基本的生活習慣のところは、当たり前だけど大事なこと。具体的な内容が書いてありわかりやすいと思う。

遊び・体験については、もう少し具体的に書かれているとわかりやすい。

最終ページの「小学校の学習へつながること」の辺りは、園便りに載せると保護者が読むのではないかと思う。ただ、ここに書かれている内容は、園の方針とか特色によっては保護者が混乱するといけないので、文字教育に力を入れている園もそうでない園でも、各園なりの解釈や説明を加える必要がある。

冊子やリーフレットの配布については、以前県の教育関連の機関が発行する小冊子の活用・購読状況について調査したことがあった。小冊子ということではあったが、中身を読んだ割合は５％程度だった。ただ配布しただけではこの程度の結果であれば、配布の仕方を考えなければ無駄になる。保護者参観や保護者が集まる場で配布し、内容について少し説明を加えてはどうか。4 月すぐではなくても懇談会等を活用して、時期はある程度任せて配布・説明するよう園に依頼してみてはどうか。

園便りに抜粋して１項目ずつシリーズ化して載せていく方法もあると思う。

宗像市全体で、印刷・配布しているリーフレットなどを調査してみて、「いきいき」などの冊子に便乗すると、コスト減にもなるだろうし、保護者だけでなく祖父母などにも見てもらえる機会になると思う。

３.その他

前回の審議会で「ペアレントメンター」ということについて話が挙がっていたが、この制度のことを聞いてとても感銘を受けたので、それについてはどうなったのか聞きたい。

→事務局でもその制度について調べたが、他県、市町村で実施しているところは数件あるようだった。この事業については宗像市では発達支援センターが担当の部署になるのではないかということで確認したが、現時点では他市の実施状況から課題も多くあるとのことで、宗像市として実施するにはまだ難しい状況とのことだった。この審議会でいただいたご意見については発達支援センターに伝えているので、今後もニーズに応じた支援体制を検討していく際の参考となっていくと思う。